

ユーラシアンホットライン

大野遼は、茨城県霞ヶ浦に「アジア・シルクロード文化村」「アジアの通信社」「多様性に敬意 アジア共生塾」の拠点を確保。今仲間の協力で清掃改修整備中ですが、課題は、二階建ての屋根瓦の補修に150万円、一階トイレの設置のための床設置、天井、壁、障子、ふすまの張替え、床板の張替えなど、来春から活動を開始するまでに、相当の補修経費がかさむ見込みです。



「アジア・シルクロード文化村」「アジアの通信社」「多様性に敬意 アジア共生塾」などの活動拠点となるかすみがうら市の建物。NPO ユーラシアンクラブ霞ヶ浦アジア共生センター（仮称）とする。

皆様のご理解、下記へのご寄付をお願いします。

振込先は、ゆうちょ銀行〇一九店 当座預金 0087777 ユーラシアンクラブ
郵便振替：00190-7-87777 ユーラシアンクラブ

今後の計画

- 1 国家民族宗教を超えて「多様性に敬意 アジア共生塾」の開始 【方法】当面オンライン講座
- 2 ユーチューブで「大野遼のユーラシアンプロジェクト」開始を検討
- 3 大野遼は、霞ヶ浦に移住。「アジアシルクロード文化村」「アジアの通信社」設置のため。
- 4 毎週日曜日午後3時から、オンラインミーティング「シルクロードユニオン」
- 5 現在、住んでいる神奈川県愛川町の中津川辺りの旧家は、NPO ユーラシアンクラブの「加藤九祚記念 アジア共生センター」として購入を計画
- 6 「タジクの黄金遺宝」日本語版は年内中に完成、販売予約の開始。900冊限定。
- 7 中央アジア・ウズベキスタンの「中央アジアシルクロード歴史文化情報センター 加藤九祚記念」は引き続き、ウズベキスタンの元留学生とウズベキスタン副首相を通して調整 「中央アジアの若い研究者育成」を視野に
- 8 ロシア連邦シカチアリャン村に「環日本海交流歴史文化センター 加藤九祚記念」は村役場と住民と引き続き調整

【多様性に敬意：国家民族宗教を超えて】

—男性結社の人類史を脱皮 限りなく少数民族にウェートを置いた民族の共生を模索する—

私は、共同通信記者時代に、日本列島の歴史と文化を考える時に、「北方の系譜」が再検討される必要があると考え、民族学の加藤九祚、旧石器考古学の加藤晋平、日本考古学研究調査の梓

組みを形成した坪井清足、田中琢、当時としては最先端の人類遺伝子研究の松本英雄らと「北方ユーラシア学会」(初代会長江上波夫、2代目会長田村晃一、事務局長大野遼)を結成し、アルタ

イ山脈の旧石器調査、パジリク古墳の日ソ合同発掘、バイカル周辺の旧石器研究、人類遺伝子調査、沿海地方の中世都城遺跡調査、渤海港湾遺跡の発掘調査、沿海地方の民族学調査、「アルタイ・シベリア歴史文明展」開催などを手掛け、1991年8月、パジリク古墳発掘中に発生したゴルバチョフ拉致事件(旧ソ連崩壊)に伴い、国家民族宗教を超えた民族の共生を模索するためユーラシアンクラブ創設に着手、1993年2月10日九段会館で国際シンポジウムを開催し、ユーラシアンクラブを創設した。

以来、さまざま活動を続けてきたが、当時はまだ海外との連絡がテレックスによるしか方法がないなど、現在では考えられない原始的メディア状況、「アジア」や「ユーラシア」に対する日本人(日本政府も含め)の理解不足など、目の前に大きな障害があることが判明し、手探りで「活動を模索」することから始まった。主たる活動舞台になったロシアでも、日本でも活動に興味を持って近づいてくる人には、個人的な知的興味か実に山師的興味としか思えない動機の人が多く、「国家民族宗教を超えて、理解親睦協力を模索する」活動の目的を目指すことは大変なことであった。これを紹介するだけでも面白いかもしれないが、死屍累々の活動を羅列することは私の興味のないことである。

私は、高校生の頃、川越駅前の書店で手に取った「シベリアの歴史」(1963、紀伊国屋書店)を通して加藤九祚先生を知り「面白い人がいるな」と強烈な印象を持った。私は小学校6年生のころから日本海を小舟で渡る大陸志向があつて、ロシア文学を読んでいた。この時の思い出は、10年後、私が共同通信記者として大阪社会部にいたころ、「国立民族学博物館に加藤九祚さんが教授で赴任してきた」という情報で復活、さっそく研究室に駆け付け、初めて面会した。初対面は気難しそうな学者に見えたが、毎日のように(民博は当時私が住んでいた社宅のすぐ隣であった)通ううち打ち解け、引き付けられ、加藤先生の背中を追うように、アルタイ山脈、シベリア、そして中央アジアに通うようになった。その中で、いくつもの記事も出稿した。「シベリア少数民族事情」「黄金山脈発掘」……。

1991年旧ソ連崩壊を目撃し、私は、ユーラシアンクラブ創設、模索的な活動にウェートを置いて、執筆は怠ってきた。人としての存在証明は、生き方にある、書いたものなどのちに残るほどのものはない、との考えからだ。加藤先生からは、書くようにお勧めいただいたこともあるが、「これも美学」などと生意気なことを言ってきた。しかし、最近、「一過性の活動は継承されない」と遅ればせながら思うようになり、ユーラシアンクラブ創設当初の夢である人間関係に基づく「アジアの通信社」の設置と「アジア・

シルクロード文化村」創設、そしてそのための「アジア塾」(鳩山友紀夫氏の指摘で「アジア共生塾」に変更)の開催を考えるようになった。「テレビ会議」の技術に可能性も認め、検討中である。ネット上では、【アジアの眼】と題して「第1章 江戸歌舞伎はチンギスハーンがいなかったら誕生しなかった?物語」「第2章 アジア源流 “幻の河オクサスから世界は始まった” という物語」という24回の連載を公開しているが、現在「第3章 男性結社が人類史を形成した、という物語」を考慮中である。日本の幕末明治以降の現代史にかかわり、埋没したアジアの再発見を目指したいと考えている。

今回、長い間休刊してきた(最終号182号2019年3月)ニュースレターを再発刊をするにあたり、手元にある書籍の紹介もかねて、第3章の連載のさわりを少し紹介したい。

今手元に、宮崎滔天の「三十三年の夢」(1902年刊)という文庫本がある。徳富蘇峰の大江塾に学び、キリスト教徒となり、キリスト教と離別し、22歳で、「一生を賭して史那内地に進入し、思想を百世紀にし、心を史那人にして、英雄を照覧してもって継天立極の基を求めん」と上海に単身侵入し、いったん帰国するも秘密裏に「史那のことはその人にあり、もし人傑の起こるあれば、天下の事一朝にして定まる。史那を変え、アジアを変えるため(人傑を探す)」の志で、日清戦争中函館にわたり、金玉均と親しかった女性の下で史那語を学ぼうとしたりしていた。これはすぐ上の兄と極秘の計画で、兄は上海、滔天はタイ経由で史那人に成りすまして「人傑」を探し支援する工作を目指し、結果横浜、香港で興亜会のメンバーと接触、横浜で孫文と出会うことになった。日清戦争後1897年のことだった。孫文は「清虜の悪政(清朝)」から人民を解放し「共和制」に移行する一ことを語り、「史那蒼生のため、亜州黄種のため、また世界人道のために、必ず天のわが党を宥怒するあらん」と、助力を訴えた。横浜での孫文と宮崎滔天の邂逅は、のちに1911年の辛亥革命の途上に大きくかわることになるが、香港を拠点にした活動は、清朝の光緒帝と組んで近代化を進めようとして敗北した康有為を孫文と連携させようとする「中国の大政奉還」の試みもあった。とはいえ、日清戦争での敗北後、半植民地化が進む清朝で孫文の共和制に加担する宮崎滔天やこれに賛同、協力する活動が語られているのが「三十三年の夢」である。

「アジアの盟主意識」をあおった福沢諭吉の影響は大きく、こぞって日清戦争を支持する世論が大勢の明治後半に、日清戦争に反対する男がいた。勝海舟である。勝は、嘉永六年(1853年)ペリー来航で阿部正弘の安政の改革で幕末の海防掛に採用され、長崎海軍伝習所でアジアの風を感じながら海軍の基礎を研修した。勝は、咸臨丸で福沢諭吉と同船し、日本人として初めて太平洋の東からアジアを見る経験をし、のちに元治元年(1864年)5月、江戸幕府軍艦奉行である勝海舟の進言で神戸海軍操練所を設置した。勝の弟子となった坂本龍馬を塾頭に、全国の諸藩の若者を集めて海軍技術を教育していたが、勝の考えは、神戸海軍

操練所だけでなく、対馬、朝鮮、史那にも設置し「三国合従連衡して西洋諸国に抗すべし」(海舟秘録)にあった。のちに日清戦争に反対するという勝の考えの淵源は、長崎、咸臨丸、そして江戸城無血開城を合意した西郷隆盛との面会までさかのぼる。この西郷についても、世上伝えられる「征韓論の西郷」は間違いで、「話せばわかる」というものだった。しかし、上記した通り咸臨丸に同船していた福沢諭吉は、金玉均事件はあったとはいえ、「欧米開明」から「アジアの盟主」宣揚へ、軍部主導の帝国主義的行動の基を築いた責任が重いと考えている。

連載では、細かく紹介できないと思うので、ここで「史那・中国」に対する勝の考えの一端を紹介する。「史那は、独逸や露西亜に苦しめられて、早晚滅亡するなどというものがあるけれど、そんなことは決してない。・・・全体、史那を日本と同じように見るのが大間違いだ。日本は立派な国家だけでも、史那は国家ではない。あれはただ人民の社会だ。【最近の共産党と人民を切り離す議論に通じる；大野遼】・・・(清朝の支配が続いていることに)史那人が治者の何者たるに頓着しないことがわかる・・・」(勝海舟『氷川清話』)。これは勝が、西洋帝国勢力の介入が増えると危惧し、反対した日清戦争から 3, 4 年、その間朝鮮の閔妃暗殺事件、戊戌変法で康有為が日本に亡命するなど、勝の手を離れた史那・中国の終末を見ながら史那の社会の奥深さに触れたコメントだった。この年、宮崎滔天の紹介で孫文は頭山満と会い、犬養毅の紹介で早稲田・鶴巻町の屋敷を紹介され、1905 年にはやはり宮崎滔天らの援助で中国同盟会を結成、東京で留学中の蒋介石と出会い、辛亥革命を担う「人傑」(宮崎滔天)を糾合している。勝の「三国合従連衡」はならなかったが、頭山満、犬養毅ら

の援助を受けた宮崎滔天の活躍で人的連携が進んでいた。

孫文はのちに犬養に「中国革命は明治維新の第二步」(1915 年)、死去前年、神戸で頭山満との会見後「東洋王道の守護者となるか」と日本に問いかける大アジア主義講演を行った(1924 年)が、1917 年のソ連の革命の影響は孫文を含め中国社会に浸透、来日直前にコミンテルンとの協力を宣言していた。勝海舟以来の宮崎滔天、頭山満、犬養毅らの「三国同盟」「アジア主義」は根底から崩壊し、軍主導の大東亜共栄圏が標榜されることになる。とはいえ、孫文が 1924 年亡くなると、葬儀には頭山満、犬養毅が参加し、孫文の棺を擁し、おくった。宮崎滔天の「三十三年の夢」の出版には孫文が序を寄せ、この中国語訳「夢 孫逸仙」(1903 年)発刊されると、中国では無名だった革命家孫文が知られるようになった。宮崎滔天自身は、「三十三年の夢」刊行ののち、浪曲師に転身したが、中国語訳の「夢」を読んだ中国の留学生が浪曲師の楽屋、自宅と、滔天を訪ねるようになり、孫文が 1905 年英国より東京に帰り、孫文と宋教仁らの革命指導者たちと滔天が東京で会った時、上記のとおり滔天は浪曲師だった。辛亥革命では、宮崎滔天は孫文が袁世凱と妥協したことに反対した。滔天は 1922 年、孫文は 1924 年にそれぞれ死去、1929 年南京市に孫文の墓地中山陵が完成した際の国葬には、頭山満、犬養毅らとともに滔天の妻ツチ他家族が招かれ、現在南京中国近代史遺跡博物館の中庭には孫文と一緒に歩く宮崎滔天の銅像が立っている。「アジア」解放を実践しようとした人間群像の一コマであるが、東西ローマ帝国の子孫たちが、「アジア」そして日本で邂逅し、国家イデオロギーと軍が跳梁する社会は幕末明治以降変わっていない。

大野 遼

【ご報告】遅ればせながら、問題山積の事業報告です。昨年 11 月レターを発行する計画でしたが、様々な問題が噴出し、対応に追われて今日に至りました。

- ① 人類史に果たした中央アジアの功績を中央アジア諸国が協力して世界に発信する「中央アジアシルクロード歴史文化情報機構(センター)」設置一で、ウズベキスタン科学アカデミー芸術研究所ピダエフ所長と合意。現在、アジズ副首相と元ユーラシアンクラブの仲間の留学生が調整中です。コロナ対応で時間がかかりそうです。

テルメズ(スルハンダリヤ州)が「加藤記念公園」の行政責任機関と考え、文化無償グラントプロジェクトの体制づくりに努力したが、「仏教センター設置」や「NPO 法人設置」と対応できない動きが最後まで続き大野遼のテルメズでの活動は断念。「中央アジアシルクロード歴史文化情報センター(機構)」は芸術研究所の支部としてテルメズの「加藤記念公園」に設置することにピダエフ芸術研究所長が賛同し、カラ

テパ遺跡の保存修復、「加藤記念碑」設置も芸術研究所、文化省を通して設置することを模索することになった。「定子さんに異論がある」とピダエフ所長に伝えた日本人研究者がいた、と知らされたが、定子さんは「異論はない。感謝している。私は何も話していない」ことを確認、ピダエフ所長に通知した。

昨年末から今年初めにかけて、アジズ・アブドゥハキモフ副首相とやり取りができ、「いい提案だと思います」と引き取られました。その後一向に対応がなく、現在日本留学生時代にユーラシアンクラブと一緒に活動していた、アジズ副首相と同じ元一橋大学留学生の V さんが仲介し、調整作業に入っている。当面、大野遼の手を離れており、様子を見守っている。

【大野遼と「加藤九祚先生を顕彰する会」のこれまでの経緯】

加藤九祚先生が亡くなったのは 2016 年 9 月 12 日(ウズベキスタン時間)。カラテパ発掘中にデナウ訪問の直後体調を崩し、テルメズの病院で息を引き取った。私は、加藤九祚先生の顕彰碑を設置したいと考えて、服部英二・元ユネスコ事務総長顧問(ユネスコの大シルクロード調査企画責任者)や田中哲二・中央アジア・コーカサス研究所所長ら、加藤先生を良く知る方々に呼びかけて「加藤九祚先生を顕彰する会」を設置した。代表幹事は事務方の大野遼を含めて 3 人で、その一人服部英二さんは、元ユネスコ事務総長顧問として長年、パリを拠点に活動し、「シルクロード・対話の道総合調査」を企画実施し、加藤先生を日本委員として選任し、加藤先生を良く評価された方で最近その活動の集大成の一つというべき「転生する文明」(藤原書店)を出版注目されている。田中哲二さんは元日銀参事、キルギス大統領の特別顧問を経て現在中央アジア・コーカサス研究所所長としてウズベキスタンはじめ中央アジアを含め、中国からコーカサスまで幅広く国際会議で発表し続けている。

「加藤記念碑」建設を目的とする「顕彰する会」の設置直後の 2017 年 1 月に、ウズベキスタンのミルジジョエフ大統領が、テルメズ市に「加藤記念公園」を設置するとの構想を発表。駐日ウズベキスタン大使館のファルーフ前大使から協力を要請され、賛同メッセージを発送、その後建設コンサルタントの派遣を要請されて、黒川紀章事務所を派遣した。しかし、ウズベキスタン政府が観光ビジネス案件として世界に投資家を

募集するなど、当初から加藤九祚先生の志を生かす文化協力プロジェクトと考える私たちと、観光振興プロジェクトと考えるウズベキスタン政府との間には、「顕彰」に対する姿勢のギャップがあった。その後、「加藤九祚先生を顕彰する会」と観光投資案件に応募した B さんとも合意して、一緒に取り組むことになったが、ウズベキスタン政府は「大使の交代」や「加藤記念公園」構想の責任をウズベキスタンのどんな機関がとるかでおよそ 1 年半ほど迷走して 2018 年秋、スルハンダリヤ州の所管に落ち着いたと聞こえてきた。私たちは、2017 年 12 月、加藤先生が発掘したカラテパ遺跡の保存修復と「中央アジアシルクロード歴史文化センター」を柱とするウズベキスタン南部のインフラ整備も含めた JICA のエイドプロポーザルドラフトを作成し、駐日ウズベキスタン大使館を通してウズベキスタン政府に送付していた。しかし、今年 2019 年 1 月になって、ファルーフ大使後任のガイラット大使から「ウズベキスタン政府としては、借款の残るジャイカ事業は実施できない。他に方法はないか」と要望があった。このため、2017 年 12 月のエイドプロポーザルドラフトを作成していただいた都市設計家の A 氏に相談



して、当初のプロポーザルの中核部分であるカラテパ遺跡の保存修復と「中央アジアシルクロード歴史文化センター」を JICA の文化無償グラントプロジェクトとしてウズベキスタン文化省に提案した。文化省としたのは、記念碑をカラテパ遺跡に設置すること、カラテパ遺跡発掘のウズベキスタン側考古学者であるウズベキスタン科学アカデミー芸術研究所のピダ

エフ所長がカラテパ遺跡への加藤記念碑設置を提案したこと、カラテパ遺跡の保存や中央アジアシルクロード歴史文化センターは文化省案件だと考えてのことであった。しかし「加藤記念公園」の所管がスルハンダリヤ州だと聞いていたので、スルハンダリヤ州の賛同を得ることが必要であり、地元テルメズでこの文化プロジェクトを支持する体制ができることが必要だと考えた。「顕彰する会」代表幹事である田中哲二さんは、駐日大使館を経由するとなかなかこの提案実現に結びつかないと、スルハンダリヤ州政府を訪問することを提案した。駐日大使館が拒否したため、この訪問は実現はしなかったが 4 月 24 日、私大野遼は一人で訪問し、要望や提案の説明を行った。テルメズでは、「加藤記念公園」に設置する日本庭園や日本旅館（ホテル）建設に興味ある声が高く、建設業者まで姿を見せたが、「私は、文化プロジェクトのために来た。このプロジェクトが実現すれば観光振興にも役立つと思う。しかし私の提案は加藤先生が目指した中央アジアの歴史文化を世界に発信することを目指すもので、ホテルや日本庭園を建設することではない」と伝えた。タシケントでは文化省のカモラ副大臣に面会し、加藤記念碑設置の要望と文化無償グラントプロジェクトの説明は受け入れられ、カモラ副大臣は「私が作業グループを組織する」と回答した。

加藤先生の活動を評価する人は大変多い。実は、先生が亡くなる二か月前の 2016 年 7 月 7 日、加藤先生と江藤セデカ理事長、そして私の 3 人は、駐日タジキスタン大使館を訪問し、ハムロホン・ザリフィ大使（元タジキスタン外務大臣）と面会した。ザリフィ大使の要望に応えたもので、ザリフィ氏は加藤先生の活動を良く知っており、先生に敬意を表するとともに、ザリフィ氏が発刊し、世界 11 カ国で翻訳出版されている「タジクの黄金遺宝」日本語版の監修を依頼した。加藤先生は快諾し、大野遼の協力を求めていた。その二か月後加藤先生が志半ばで亡くなると、ザリフィ大使は「加藤先生の記念碑建立にあたってはパミールの大理石を提供する」と申し出ていた。私は昨年、スルハンダリヤ

州と文化省を訪問するに当たり、4 月 23 日、ドゥシャンベを訪問しザリフィ氏に面会し、改めて大理石提供の気持ちを確認し、「ウズベキスタン政府が大理石寄贈を受け入れる」ことを条件に寄贈する合意文書をいただいた。私は、スルハンダリヤ州のアンバル副知事、文化省のカモラ副大臣にこの文書を提示し、加藤記念碑設置要望、文化無償グラントプロジェクトの提案にとって、大理石の寄贈は最初の一步と評価される国際交流の提案として説明した。

しかし大野の活動は、駐日ウズベキスタン大使館の仲介やテルメズで顕在化した、大野の提案を「仏教センター設置」にゆがめて受け止めたり、「ウズベキスタン政府のリーダーシップ」の提案を「NPO 法人による国際交流」と矮小化、都合よく受け止めるウズベキスタンとテルメズの観光振興にウェートを置いた動きによって疎外された。中央アジアの歴史文化解明と情報の共有、世界への発信にウェートを置いた加藤先生の志を顕彰する文化の提案を実現することがテルメズでは受け入れられなかった。私は、「加藤記念公園」の所管がスルハンダリヤ州と聞いていたので、「何とかテルメズで受け入れ態勢ができないか」と模索してきたが、「観光振興」と「文化」の狭間で翻弄されて、8 月下旬、「テルメズで文化プロジェクトの実施体制を作ることは無理」と判断した。この結果が、冒頭に紹介したウズベキスタン科学アカデミー芸術研究所の所長（前ウズベキスタン考古学研究所所長）で、カラテパ遺跡を発掘した加藤九祚先生の共同発掘者、ピダエフ・シャキルジャン氏を通して「芸術研究所の支部として中央アジアシルクロード歴史文化情報センターを加藤記念公園に設置」「カラテパ遺跡の保存修復」「加藤記念碑の設置」を実現する一という合意でした。

以上が、この間の経緯の概略です。そして現状は冒頭に述べた通り、コロナ対応もあり、きわめて対応が遅れている政府の動きを見守りながら、今後、ピダエフ先生の活動に対して、どのように協力できるかについて考えていきたい。引き続き皆様のご理解ご支援を希望しています。

② アムール流域先住民族芸能祭にアイヌのミュージシャンが初参加。アイヌ民族文化財団には①損

害賠償請求②要綱の改善③第三者委員会の設置を要求、文化庁がこの問題を引き取り、実地調

査で解決する考えをユーラシアンクラブに回答。しかしコロナ対応で時間がかかっている。

第 8 回愛川町音楽祭（2017 年 8 月、サハ共和国ヤクーツク市）をきっかけに始まって、昨年で二回目となるア

ムール流域先住民族芸能祭『極東のリズム』(2019 年 8 月ハバロフスク地方政府、シカチ・アリヤン村主催) にアイヌアートプロジェクトの 3 人のミュージシャンを派遣

アイヌ民族文化財団(札幌)の海外派遣助成(総経費の半額)を受けて、結城幸司、早坂賀道、福本昌二の三人をユーラシアンクラブが 29 年間交流を続けるロシア連邦ハバロフスク地方のシカチ・アリヤン村とハバロフスク市に派遣し、世界先住民の日を記念した先住民芸能祭「極東のリズム」(アムール流域先住民族芸能祭)に参加した。

8 日は、早朝からスケジュールを調整してチョウザメふ化場見学、シカチ・アリヤン村の岩画見学、村の画家イリヤさんとの交流、村の博物館見学、村の住民との交流などで、アイヌとアムール先住民ナナイの生業と文化に触れて交流ができて充実した一日を過ごし、3 人は一日の遅れを取り戻してほっとした。9 日は朝から村の芸能祭の舞台となる文化館で、ほかの先住民族音楽家より長い 1 時間のリハーサルを確保し、文化館入口の一番いい場所で版画や木彫などの工芸品を展示、ナナイやウリチの工芸品を視察し、アムール先住民の皆さんと交流。透かし彫りなどアイヌの木工技術とよく似た作品に驚いたり、「私のおじいさんはアイヌ」「親戚にアイヌがいる」などと声をかけられ、アムール流域と北海道との根深い交流史に思いを馳せた。芸能祭オープニング直前には、会場前の広場で、村のシャーマンでもあるドンカンさんの天地の神々に催しの成功を祈る儀礼(アイヌのカムイノミに相当する)が行われ、3 人も参加した。芸能祭の本番では、ロックミュージシャンでもある結城さんの魂の唄で聴衆の心をつかみ、「稲光」「魔物のすり足」「狼の話」「霧を揺らして」「狐」「春夏秋冬」など伝統曲オリジナル曲を織り交ぜて演奏、最後にこの芸能祭のために作曲した「アムール」を紹介し喝采を浴びた。大野は、アイヌとアムール流域について話し、芸能祭後のミニシンポジウムでは「極東アジアとシカチ・アリヤン村。文化遺産でつながる都市交流」をテーマに 30 分ほど発表した。

シカチ・アリヤン村での芸能祭のあとハバロフスクに移動し、翌日は朝からアムール河岸のレーニンスタジアム公園広場の野外舞台に移動し、夕方のガラコンサートに向けたリハーサルに臨み、サハ共和国やカムチャッカ半島からのミュージシャンと交流し、本番の最後には「極東のリズム」を合奏した。この日も、親せきにアイヌがいるという人たちがアイヌを知るロシア人が 3 人を囲み、一緒に写真を撮る人が絶えなかった。本番の演奏では、聴衆も拍手、手拍子で応じ、大変盛り上がった。アムール流域先住民族芸能祭へのアイヌのミュージシャンの参加は初めてだったが、今後の交流につながる意義のある催しとなった。

派遣にあたり、財団の経費軽減のためアイヌ 3 人のミュージシャンは、札幌からユジノサハリンスク経由でハバロフスク入りしたほか、東京からは大野遼のほ

かユーラシアンクラブ理事で結城さんとも親しい矢部誠、幼馴染の清水誠の 3 人が成田空港からハバロフスクに入り、シカチ・アリヤン村のユーラシアンクラブ会員ドンカン・ビクトリヤさんの出迎えを受けた。アムール流域先住民族芸能祭は、アムール流域のナナイ、ウリチ、ウデゲ、サハ(ヤクート)、チュクチ、などの先住民族の演奏家に混じって、初めてアイヌのミュージシャンが演奏を披露し、下記に紹介するように大成功を収めたが、ユジノサハリンスクとハバロフスクで航空券トラブルに巻き込まれ、4 回航空券を購入する大失費となり、3 人のミュージシャンはサハリン経由でアイヌの故郷ともいえるアムール流域を訪問し、北京経由で札幌に帰国、日本海を一周することになった。

今回の航空券トラブルは、交通事情が悪く、アクシデントもあり、早朝 50 分前にユジノサハリンスク空港に到着したことから始まった。空港カウンターでは搭乗手続き終了を告げられ、「罰金を払えば、後続の便に予約変更できる」と告げられ、夜 8 時の便を待っていたが空港カウンターに「職員はいなかった」という異常な事態に遭遇。結局日本で購入した航空券は失効し、その日(8 月 6 日)のうちにハバロフスク空港に到着するためにヤクーツク航空の航空券をネット購入して、空港カウンターに向かったが「すでに職員はいなかった(搭乗手続きは終了していた)」という。結局 3 人は前日の 5 日にサハリンに入り 6 日もユジノサハリンスクに泊り、翌日の夜の便でハバロフスク空港に到着、ドンカンさんと大野遼の出迎えを受け、シカチ・アリヤン村に 7 日深夜着いた。8、9、10 と芸能祭は成功裡に終わったが、11 日帰国日当日、ハバロフスク空港搭乗カウンターで、帰国便の航空券も失効していることが判明し、すでに手持ち資金もなくなっていたため少数民族協会会長が協力して日本円で 42 万 2 千円相当を支出した。結局今回のプロジェクトでは総計 52 万円以上の超過支出が発生することになった。

かくしてアイヌのミュージシャンは札幌まで帰国できたが、帰国後、アイヌ民族文化財団に、申請した企画製作者の同行を認めなかったことに疑問を呈し、添乗者への助成を認めない態度は問題であると指摘し、11 月から文書による問い合わせを行ったが財団は問答無用の態度。やむなく指導官庁の文化庁に指導を申し入れ、初めて電話で阿部範幸事務局長と話ができた。その結果、財団の海外助成の考えは「アイヌが行けばいい」「コーディネート団体は助成の対象にしていない」という、財団の要綱には書いていない、阿部次長の腹積もりで対応されていることが明らかになった。このため財団に損害賠償請求を行うとともに、要綱の改善、財団の運営の公明化のため第三者委員会の設置を要求した。文化庁は、ユーラシアンクラブの問題の指摘や

要求を、文化庁の課題として引き取り、財団の実施調査で解決するとの考え。不調なら対応を考えたい。

2019年8月8日

アヌイのチョウザメふ化場施設見学



シカチアリヤンHの画家イリヤさんとアイヌアートプロジェクトの交流会



シカチアリヤン村アムール河岸辺の岩画を撮影



シカチアリヤン村住民代表の歓迎会「互達の輪」

「快挙！！ドンカンさんロシア連邦教師コンテストで3位」そして「長年の友人リュウダが亡くなった」

ロシア連邦ハバロフスク地方・シカチアリヤン村の教師で、ユーラシアンクラブ発足当初からの会員でもあるビクトリア・ドンカン・レオンチェヴナさんが、ロシア連邦の先住少数民族の言語、伝統文化を子供たちに教える良い教師を顕彰するコンテストで、全国3位に入賞しました。

一昨年、ハバロフスク地方のコンテストで1位に入賞して、昨年11月モスクワで開催された連邦コンテストに参加しました。





アムール流域先住民民族音楽祭オープニング

コンサート会場がワイエ
での上演は歴史が



アイスアートプロジェクト 先住民民族音楽祭公演4番



【ニコルゴジウム大野講演「シオウアチオン村とアジア、北海道」】



2019年8月10日

音楽コンサートローザル



クラフコンサートフォーレ



8月11日

ユーラシアンクラブメンバーの帰国見送り「この歳、親孝奉トサブル養生（母田徳の先時が執明）」



※ ハバロフスク少親世英協会会長が、母田航多善のチケット購入（42万2千円）を立て替へる協力。帰国後ユーラシアンクラブ会長大野瑞が友人から借款を受け、返却した。

③ 文化遺産を絆にした都市間交流は振り出しに。少数民族協会長直前に会議場所を変更したため。

シカチアリャン村の「自立」を求め話し合い中。

一昨年、シカチアリャン村の考古学的ガーシャ遺跡やアムール河岸の玄武岩に刻まれた古代絵画と関わり深い北海道、本州の 4 都市を訪問、特に、小樽市、余市町の洞窟遺跡の壁画を訪問し、文化遺産を絆としたシンポジウムや都市間交流を模索している。その結果、在ハバロフスク日本総領事館が興味を示し、12 日、ハバロフスク地方政府で都市間交流をテーマとした会議を開催し、来年のシンポジウムにつなげるべく準備してきた。事前の準備は、シカチアリャン村のニーナ村長、シカチアリャン村のユーラシアンクラブ会員ドンカンさんを通して行ってきた。ハバロフスク地方政府が、シカチアリャン村の都市間交流について、ハバロフスク少数民族協会を介した調整を提案したと伝えられ、総領事館との話し合いを見守ってきましたが、少数民族協会を通じた総領事館との面会もきちんと行われておらず危惧していました。しかし、私は、シカチアリャン村の文化遺産と北海道、本州の文化遺産の

重要性、特に岩画の情報を総領事館の門倉首席領事に提供し、門倉総領事も二度にわたった愛川町の大野遼の自宅まで訪問し、長時間懇談するなどしていました。

この結果、ロシアと日本の地域間交流促進の方向で、ハバロフスク地方政府とシカチアリャン村、私そして総領事館が参加する会議を開催することになりました。都市間交流はあくまでロシアと日本の自治体同士の交流であることを確認するためでした。それが、少数民族協会が間に入って、会場の確保で仲介し、直前まで「ハバロフスク地方政府の会議室」での会議の予定だったはずの計画が、少数民族協会会長の判断で、何の連絡もなく変更され、地方政府庁舎の会議の後参加者で懇談する中華料理店の予約までしていた駐ハバロフスク総領事館の誠意が踏みにじられる結果となった。なぜそうなったか、私には不明で、協会長には総領事館を訪ねて説明するように要望したが今に至るまで実現していない。当面この計画は中断することに決めた。

多様性に敬意;アジア共生塾企画書

【アジア共生塾の目的】

オランダ村、ドイツ村、ディズニーランドはあっても、アジアを理解し体験する場所のない日本。脱亜入欧が政治、経済、文化、衣食住を支配してきた明治以来の日本。そして日本を含む世界は、グローバリズムとナショナリズムを裏表に、植民地帝国が形成した「国家の時代」が呻吟し、最終章を迎えている。地球上で人類が生き残れるかどうか、人類史を左右するのは、大国の狭間で暮らす、諸国、諸民族に正面から見据えて少数民族、先住民族に限りなく敬意を表する民族の共生と自然との共生の模索にある。将来にわたるアジアの一部である日本列島で、アジアの国家民族宗教の共生の道を探る。霞ヶ浦に、アジアのアンテナショップというべき性格も備えた文化発信拠点「アジア・シルクロード文化村」、「アジアの通信社」を設置し、国家民族宗教を超えて「民族の共生」「自然との共生」を模索する人材の育成を目的とする。ユーラシアンクラブはアジア人主体のNPO法人に脱皮する。

【人材育成の目的:アジアの文化メッセージの発信】

アジア・シルクロードフェスティバルの実施⇒ 繰り返しながら「霞ヶ浦アジアシルクロード文化村」に収れん
特集記事のニュースレター発行 タジキスタン特集(来年建国 30 周年、および「タジクの黄金遺宝」日本語版発刊を記念)(すでにトルクメニスタン特集は発刊済み、今後アフガニスタン、ウズベキスタン、キルギス、モンゴル、ネパール、ブータンなど内陸アジア諸国を紹介、その他テーマ別にニュースを発信、発信方法も検討)⇒ アジアの通信社を模索

【対象】 当面 10 人規模

アジア共生塾の参加者は、受講後シルクロードユニオン(アジアの文化普及に努力する団体・ボランティアと一緒に文化発信する実行委員会)に参加できる、高校程度の地理歴史を習得した人(ユーラシアンクラブスタッフ候補)。

【アジア共生塾の講師】

大野遼、浦川治造、江藤セデカ、富川力道、GULI、その他
アジア諸国大使、交流団体関係者、等

【アジア共生塾の内容】国家民族宗教を超えて;民族の共生、自然との共生を模索する

アジア共生塾の総合タイトル:【アジアの眼:多様性への敬意】民族共生の模索 ナショナリズムと多様性 文化とは

何か 世界は先住民族を守るか—「片目」「左脳」で観てきた日本人の世界観から「アジアの共生」を模索する—

アジア共生塾のテーマは、下記の内容(暫定)とする「3回シリーズ」(各回2時間)を繰り返し、「中央アジア7か国とアイヌ」(各回1時間)の発表、ディスカッションで構成する。各回4時間の時間を確保し、シルクロードユニオンのプロジェクトの協議を続ける。

① 気候変動と人類史

- 1) 農耕民族から見えるアジア史の模索、遊牧民と農耕民、太陽に頼る人—三つの物語 太陽と水の物語は金石併用時代に始まった。太陽と水が山にある遊牧民、太陽樹の物語は稲作、シュメール・インダス文明・マリヤギンプタスの「古ヨーロッパの女系社会」、メオ族の射日神話とアジアの文化圏論、鳥居龍造、白川静
- 2) 遊牧民、騎馬民族から見えるアジア史の模索 交易と農耕社会 鉱石を採取、交易の利益を守る男性結社が作った「国家」、男系社会と民族の興亡、ミトラ・ミフラ・ミラス・弥勒、禹、臍腹から生まれた者、BMAC、江上波夫、伊藤義教、岡田明憲、ゾロアスター—ユダヤ—キリスト—ミラス—イスラム、仏教、義淵、良弁、実忠、鑑真、安如宝、空海、玄奘三蔵、井上靖
- 3) 洪水伝説、人類史と自然破壊の歴史(農耕から金石併用時代、青銅器時代と国家の誕生)
エジプト、ウヴァイド人からシュメール人、天水農業から灌漑農業、ニッブル市の洪水伝説、ギルガメシュ叙事詩、イマの洪水対策、インドのマヌの大洪水、インドラの通水、禹の通水、黄金、銀、ラピスラズリ、銅、錫、…石炭、石油、ガス、ウラン。

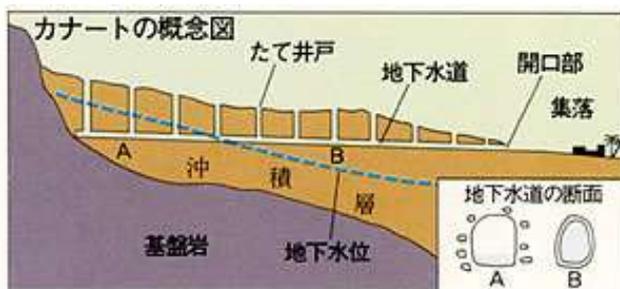
② 人類史と少数民族、難民

- 1) 国家ナショナリズムを支える思想。中華思想への疑義。国家を生んだ遊牧民、「天の思想」の起源。「天のイデオロギー」;山に太陽と天池がある遊牧民の男性結社「アジアの国家イデオロギーと宗教、アフラマズダ、中華、儒教、自由と民主主義「正義」と強者のイデオロギー、中央と地方、
- 2) アジアの歴史と少数民族、近代植民地帝国と国民国家、欧米と大東亜共栄圏、アジアの解放「独立」、難民、「国家」の狭間の北方領土、アジアと環日本海交流、「人類史とシカチアリヤン村」、日本列島とアジア、北方ユーラシア
- 3) アイヌ、ナナイ、クルド、…難民

③ 先住民族、少数民族から見えるアジア史の模索

- 1) 「中華幻想」と「東京」、「文化とナショナリズム」とは何か? 国家イデオロギーと人類史、成り上がりを支えた哲学、国家民族宗教と少数民族、「哲学の時代」の不思議、男性結社が覇を唱える時代、「神の王国」を支える「善」が必要になった、加藤九祚、加藤晋平、ゾロアスター、ウイシュタースパ、キュロス、ダリウス、ブッダ、
- 2) アジア、ユーラシアは植民地用語 ヘロドトスの「歴史」「ユーラシアン」は混血児、「アジア」とは何か? アジアの地勢、アジア・ユーラシアの起源「アジア・ヨーロッパ・リビア」、「アジアの縮図」アフガニスタン、ヘロドトスの歴史、デュアランドライン、「ユーラシアを見た者」、日本の敗戦と国連、木村肥佐生、江上波夫、アレキサンダー、ソグドのスピタメネス、月氏、匈奴、マニと明
- 3) シルクロードユニオン、アジアユニオン、永世中立国、世界連邦、国家・国境線と少数民族、「中央アジア7か国」とはどこか? 「シルクロード」とは何か? シルクロードとラピスラズリの道、錫の道、海のシルクロード、「タジキスタン」という国。高松塚古墳の女性衣装、アジアの基層文化の淵源、アジアの音楽史と李白、チンギスハンがいなかったら、江戸歌舞伎は誕生しなかった、井上靖、

水の管理は人類永遠のテーマ



「ヨーロッパの植民地＝アジア」を解放するため、勝や李鴻章、晩年以前の孫文にあった「アジア主義」

しかし、「ロシア対応」で李鴻章はロシアから賄賂をもらい、宮崎滔天、頭山満と孫文の間には齟齬が生まれていた。日清戦争が明暗を分けた。孫文は1924年死去。頭山満、犬養毅に担がれて葬られ、南京市には孫文と並んで立つ宮崎滔天の像は、「夢半ば」の象徴。実現しなかったアジア主義を取り戻し、世界を安定させるキーワードは「多様性に敬意」。だが中共は内モンゴル西部に広大な宇宙軍基地を建設「世界人類共同体」「一帯一路」を進め、チベット、ウイグルに続き内モンゴルのモンゴル語教育を中国語に変更しようとしている。

日本という国が、鎖国で安閑としていた江戸時代の最後、長崎のオランダ情報で、イギリスがアヘンと海軍の力で清朝を苦しめていることや米国のペリーが開国を求めて日本に来るなどの情報を得て、新たに知った世界が「アジア」だった。「欧米の植民地アジア」であった。阿部正弘の改革で「海防」に向かい合うことになったことが、日本と「アジア」との最初の出会であった。この第一歩で、「海防」の前面に立ったのが勝海舟だった。薩摩の幕末の英守島津斉彬に取り立てられた西郷隆盛とは、薩長同盟の頃から接点があり、江戸城無血開城は、勝海舟と西郷隆盛の信頼関係によって実現した。勝海舟は初代海軍卿、西郷隆盛は初代陸軍大臣だが、勝は任務に消極的、西郷は征韓論で下野、西南戦争で自刃している。のちの明治政府は福沢諭吉の「盟主意識昂揚」のレールで、勝の反対した日清戦争で、英米ロを巻き込んだ植民地帝国の最終戦に流れていく。

コロナで世界が疲弊している最中、中国は「香港国家安全維持法」によって一国二制度を破壊し、人民解放軍の支配を香港に及ぼし、民主化運動に参加した若者を恐怖に陥れ、インドチベット国境で軍事挑発でインド軍兵士数十人が死亡。南シナ海の島嶼部を埋め立て軍事基地を造成し、フィリピン、ベトナム、マレーシアとの間でトラブルを発生させ、米軍が自由航行作戦を展開して緊張状態となっている。東シナ海では、日中中間線付近での一方的ガス油田開発に着手、尖閣の領有支配を念頭に置いた公船、漁船の運用で緊張状態を作っている。

そんな中、今度はチベット、ウイグルに続いて、内モンゴルで、9月1日から「モンゴル語の教育を禁止し、漢語に変える」との通達が出され、親や子の授業ボイコットが行われ、反対署名、公開質問、抗議デモなどが起き、モンゴル国、在日モンゴル人の間でも抗議行動が広がっている。

上記のような動きは、野心一杯の習近平が、鄧小平が切り開いた現代中国の礎を忘れて、「共産主義・共産党」という国家イデオロギーを利用して、「中華」の復興を図るといふ、野心を満たすための「木に竹盟主意識」で「人類共同体」と「一帯一路」を、金と軍隊の力で押し進めようと抗っていることから起きている。以下の文章は、募るイライラを伝えたくて、フェイスブックで紹介したものが、再録する。

あまり書きたくはないが、鬱々とする日々である。

「中華」を冠した人民共和国は、孫文以来、「アジア主義」から道を外れ、アジアの多様性に敬意を持つことをしな

かった。スターリンのコミンテルンの協力で、またルーズベルトとその周辺にいたスターリンの信奉者が、蒋介石から毛沢東にレールを乗り換え、今日の台湾で緊張する原因につながっている。チベットの大虐殺は、「滅満」を語り「中華」を掲げながら、清朝の領域を引き継いで行われた。「中華民国」も「中華人民共和国」も。「中華」を語る独裁者が、「人類共同体」、「一帯一路」を語っていいはずがない。

ウィキペディアによる、「中華」における最初の多様性虐殺は、例えば、

一この恐るべき配給は、命を支えるのに充分でなく、民衆は飢餓の恐ろしい苦痛に苛まれている。チベットの歴史において、こんなことは起きたことがない。民衆は夢の中でも、こんな恐ろしい飢餓を想像することはなかった。地域によっては、1人が風邪を引くとそれが数百人に伝染し、それによって多数の人が死んで行く。(中略)チベットでは1959年から1961年までの2年間、牧畜と農業は殆ど完全に停止させられた。遊牧民は食べる穀物が無く、農民は食べる肉もバターも塩も無かった。いかなる食料も材料も、輸送することが禁じられた。それだけでなく民衆は出歩くことを禁止され、携帯用のツァンパ(麦焦がし)袋も没収され、多くの人々がそれに抵抗してあちこちで抗争が起こった —バンチェンラマの周恩来への改善要望書

カム地方でも1965年まで飢餓が続き、パンチェン・ラマが批判した惨状が継続していた。他にもパンチェン・ラマはチベット民族の消滅を危惧している。

パンチェン・ラマ10世は文化大革命の際に紅衛兵に拘束されて1968年から1978年まで10年間投獄され、出獄後も1982年まで北京で軟禁された。パンチェン・ラマ10世は1989年の演説で「チベットは過去30年間、その発展のために記録した進歩よりも大きな代価を支払った。二度と繰り返してはならない一つの過ち」と自説を述べた。これは中共政府の用意した原稿を無視した演説であった。その発言のわずか5日後、パンチェン・ラマ10世は死去した。中華人民共和国政府は死因を心筋梗塞と発表したが、チベット亡命政府や西側のチベット独立運動家などは暗殺説を主張した。

1949年以降、数千万人が餓死し、チベットでは1950～1976年の間に120万人以上が亡くなっている。

ウィグルでも、ウィグル語の教育が行われていたころの社会を知っているが、ウィグル語の教育が禁止され、拘束されたり、パスポートが没収されたり、多様性を否定する「人類共同体」や「一帯一路」の称揚は、日本の「大東亜共栄圏」の背景をなした権力者とその同調者の「盟主意識」が根幹にあり、人類の未来に危ういものを感じざるを得ない。

モンゴル語の禁止で広がる、親や子、内外の悲しみや怒りは、どこに向けられるか、と言え、ば、「盟主意識」を正当化するすべての「人」に向けられる。「多様性に敬意」を、が「中華」中国の課題だと考える。モンゴルの言葉、歴史文化への敬意が無くては、今の中国もあり得ない。ウィグルの言葉、歴史文化への敬意が無くては、今の中国もあり得ない。チベットの言葉、歴史文化への敬意が無くては、今の中国もあり得ない。ウボポイを設置した日本も心して考えなくてははいけない。

ここまでがフェースブックの採録だが、最後のウボポイについて簡単に記す。

いうまでもなく、アイヌは、最終氷河期に、まだ日本列島が大陸の一部であった時代にさかのぼり、徒歩で大陸からやってきた人々が、のちに日本列島の「縄文時代」を形成する時にさかのぼる日本列島の先住民族であると私は考えている。その後、大陸や日本列島で形成されたさまざまな民族グループとの接触混交を経て、特に日本の大和朝廷や後の武家社会の覇権伸張の過程で、多くの戦闘に引き込まれて被害にあった人々も多かった。明治に入り、本州からの植民も本格化し、日本語教育、日本語改名、生業の制限、土地を失うアイヌも多く深刻な生活破綻に直面する人も多く出ていた。1899 年 3 月、北海道旧土人保護法が制定され、二風谷のアイヌ萱野茂さんが廃止提案し、1997 年 7 月、アイヌ文化振興法が制定されるまで使用された。アイヌが日本の先住民族であるということは、1987 年、二風谷ダム建設に反対して訴訟を起こした貝沢正さんと萱野茂さんの訴訟の最終場面で、貝沢正さんの死後、1997 年、アイヌ民族の立場を無視した土地収用は違法と「アイヌは先住民族」であるとする判決が出るまで、法的に認められていなかった。これがその後のアイヌの先住民族としての権利を回復する起点となり、2019 年 4 月、アイヌは「先住民族」と明記したアイヌ新法が成立した。先住民族

の権利については記載されず「民族の共生」をうたうこの法律には、課題が指摘され、観光文化振興にウェイトが置かれていることが気になることである。しかし少なくとも「先住民族」であることを認め「民族共生」を謳っていることは、出発点にはなるだろう。今私は、今年夏オープンした「民族共生空間ウボポイ」の管理運営団体「アイヌ民族文化財団」と争っている。原因は、財団の事務局次長が「財団が対象とするのはアイヌだけ」「(日本人の) コーディネート団体は対象としない」という、財団の要綱には書いていない事務局次長の腹積もりで海外助成事業を「処理」していることが判明したので、「偏狭なアイヌナショナリズム」で、財団は(日本の)公益法人としても、民族共生を謳うウボポイの管理運営団体にもふさわしくないと批判している。文化庁が「預かり」「調整」しているがどうなるか、注目している。

アイヌは、ロシアの先住民族であることをプーチンロシア連邦大統領は発言している。新しい、民族共生の方向で、アイヌが活躍できる可能性がある、と期待している。

この項の記事のきっかけは、9 月 1 日から強引に始まった「中華」中国で、内モンゴルのモンゴル語教育の禁止にある。人民解放軍や警察も出動して、子供や親だけでなく、内モンゴルの行政機関、モンゴル人の抵抗が広範に及んでいる。抗議の自殺まで起きる悲惨な事態となっている。抗議は、日本を含め世界規模で拡大している。孫文以来、「多様性に敬意」を欠いた「中華主義」が顕著で、共産主義を「中華」支配の国家イデオロギーとして利用する独裁的支配が 1949 年以来続いている。スターリンとその後継者、ルーズベルト、トルーマン、その手足となって蒋介石から毛沢東への中国支配のレールを強引に促したマーシャル将軍らの犯罪的行動は厳しく批判されなければならない。チベットも、ウイグルも、モンゴルも、そして「漢族」(漢族は後漢末三国時代にほとんど絶滅し、中国史は、異民族支配が興亡する時代が変わっている。したがって「中華」も幻想である)以外の、少数民族にも敬意を表する国に変貌したほうがいい。彼ら、少数民族があつて今の中国がある、ことに思いをいたし、先住民族、少数民族に敬意を表すべきだ。その先に、勝が思い描いた未来志向の「三国同盟」、未来につながる人類の道があると信じる。

9 月 12 日、中国のモンゴル語禁止に抗議するデモに参加した。モンゴル人を含め中国の 55 民族が敬意を表され、共生するようになることを期待して。 大野 遼

発行：特定非営利活動法人ユーラシアンクラブ 発行人：大野遼住所：〒243-0303 神奈川県愛甲郡愛川町中津 6314-1TEL：046-285-4895 FAX：046-265-0167 E-MAIL：paf02266@nifty.ne.jp郵便振替：00190-7-87777 ユーラシアンクラブ お振込の場合：ゆうちょ銀行〇一九店 当座預金 0087777 ユーラシアンクラブ 会費、ご寄付はこちらへ。会費は正会員年間 1 口 3,000 円、学生会員 1,000 円、賛同会員 2,000 円。一口以上のご協力をお願い申し上げます。無断転載を禁ずる。

<http://eurasianclub.org/>

Non Profit Organization Eurasian Club

編集後記：いくつかの大国の時代錯誤的ナショナリズムが際立ち、人類の未来が見えやすくなっている。とはいえ「未来はない」「未来はある」が微妙なことには変わりはない。まだメディアの記者だったころから国家や民族、宗教の枠組みを超えた人のかかわりがポイントだと考えていた。川越駅前の本屋で九さんの著作と 50 年前に出会い、大阪で本物と出会い私の運命は定まった。人類の未来に少しでも貢献できる活動が続けて終わりたい。私の当面の目標は、「アジアの通信社」「アジア・シルクロード文化村」の立ち上げにある。寝言に終わらせない。これ以上迂回する時間はなくなった。(お)